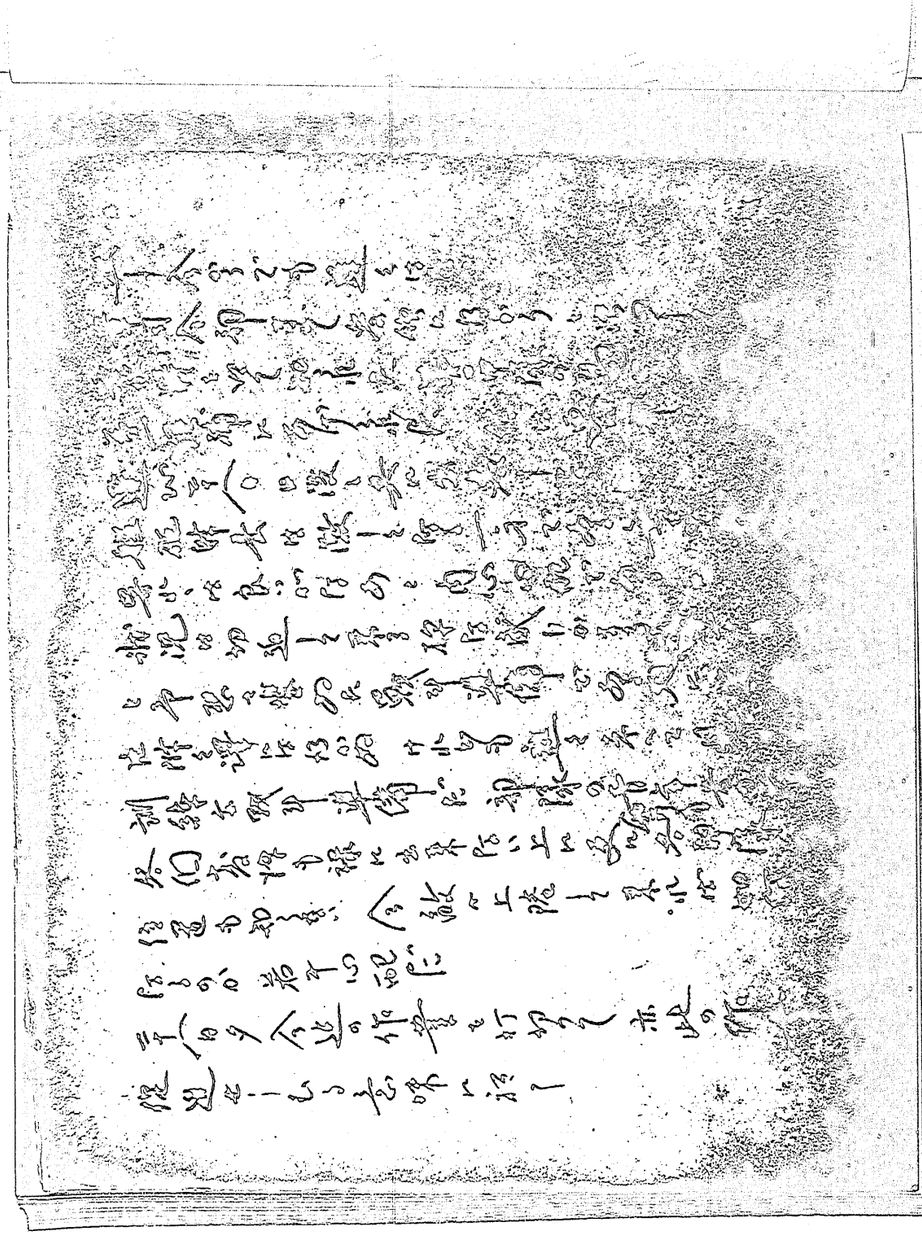
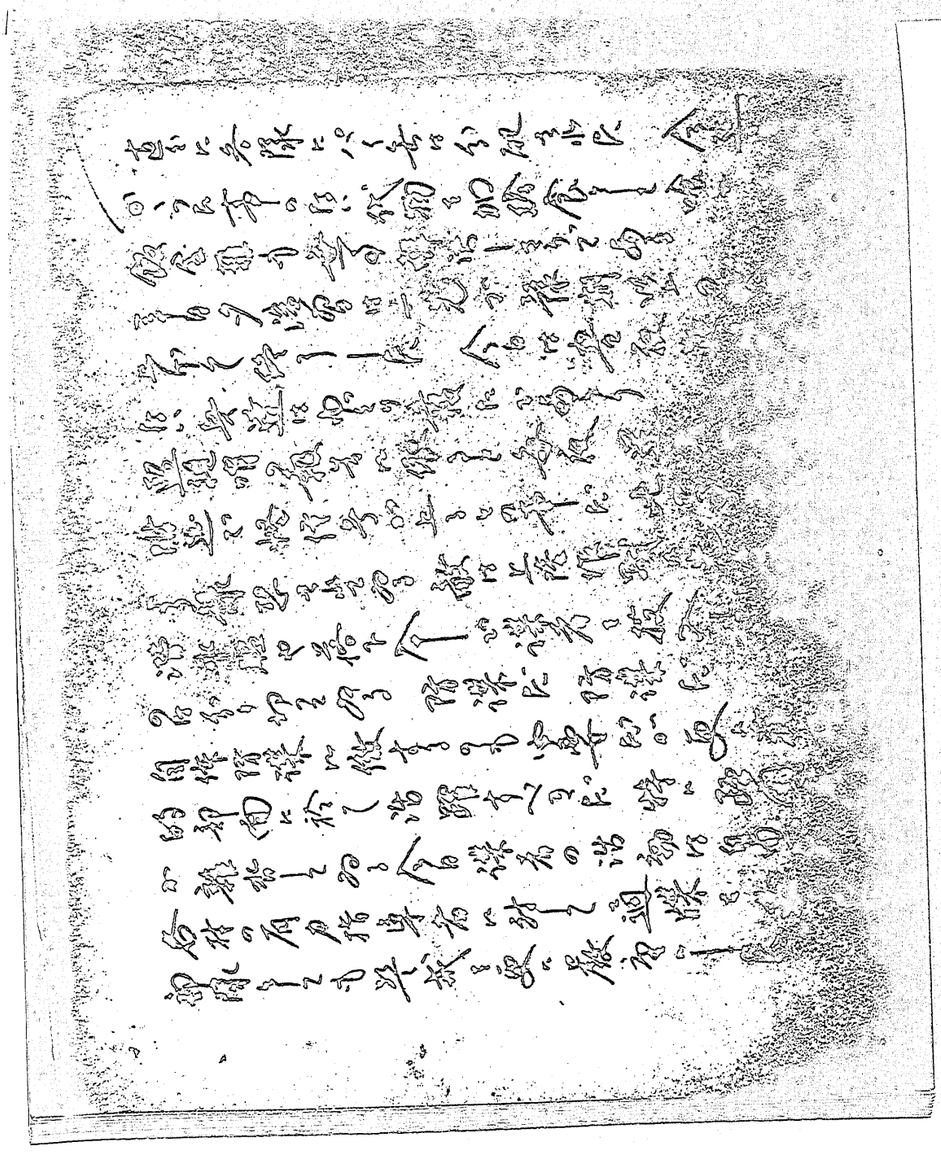


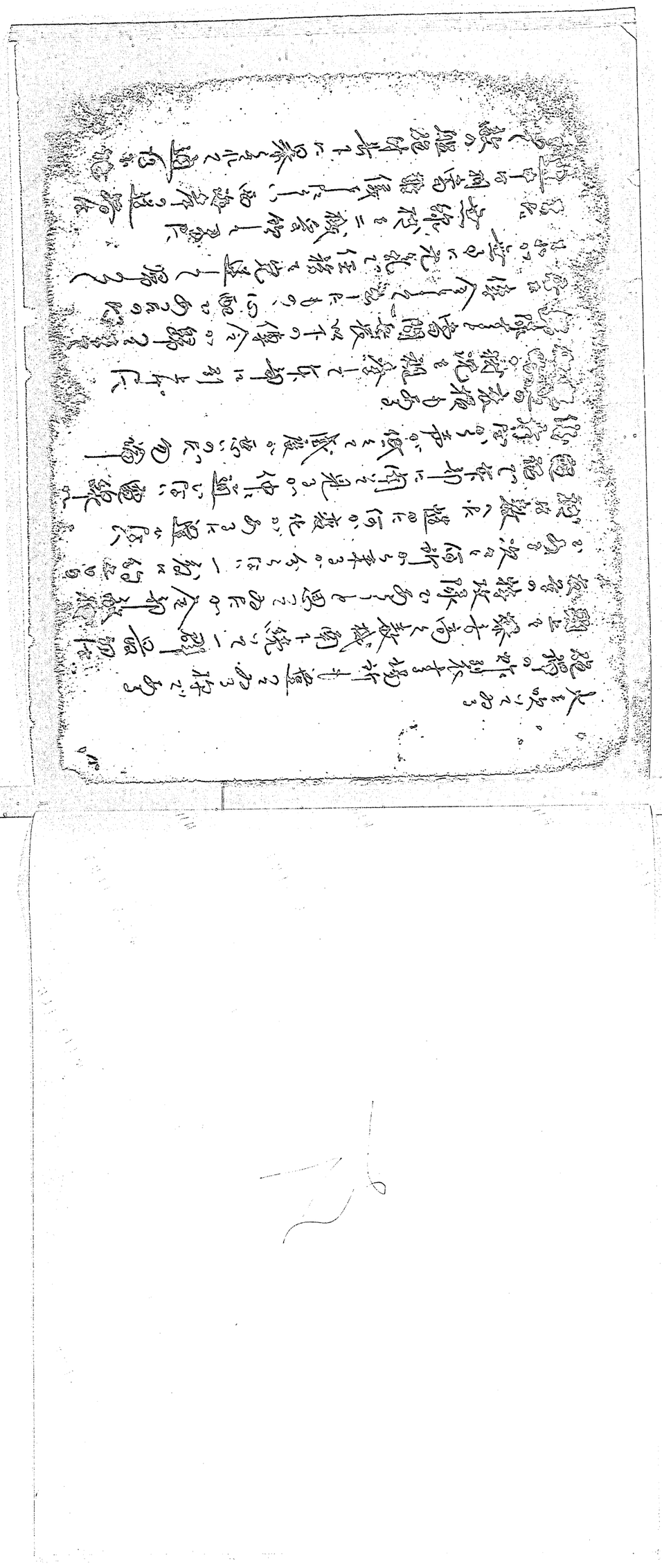
に非常呼集を命じた
[illegible]行ふの非常[illegible]
各中隊隊部は各隊[illegible]
経路の選択、指揮掌握[illegible]
偵察を下令して命令を伝達し[illegible]
すも敵中に陥る場合（三日初の夜襲の[illegible]
偵察）をして所命の地点に集合する迄
至らずを要した。こんな訓練はやった事
がなく無理かと思ったが、然し無理では済まされん、
[illegible]して指揮をしなければ敵中は大分散し
状況を与へて（兵の状況に近きもの）各隊長
指揮のもと三日分に亙る敵陣ーの実地訓練
が開始された　住民の敵。
集散離合　方向維持　潜行　伝令　等
兵は全く真剣になりつつ演習してゐる
三中隊の演習にも熱が入って来た

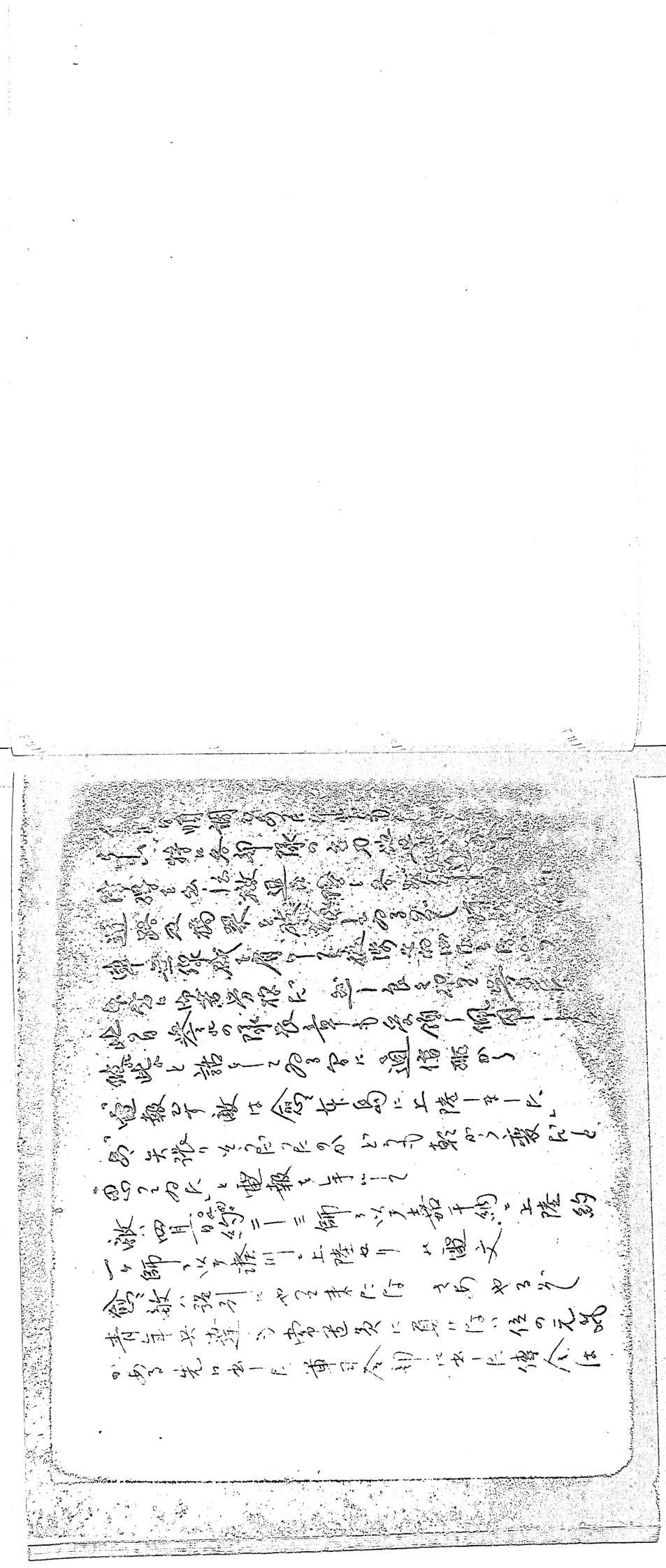
なお、二十九日通信班より無線、移動後僚に力を尽す旨
意見具申あり
無理も数多はしてゐるが一機しかないので心細くなる所
当然だ更に四機の申請隊が来る筈
意見具申をする意義は如何である
昨日出発せる如く当日会敵以下六名出撃
もて訓練に見ると飯が喉を通らない飯盒がないから
である各隊の陣地内には何とかなるのだが初期
特に城中湾乃至には早速用る問題だ
又こうなれば石垣の出るものだ 此度事務の一
陽花財産番号はとってあるパイプも用ひて
其の答弁を利用したらよいと思います
数多なる逆宴かも知れぬ早速やって見よう
パイ缶の答弁に飯盒の吊金の様なものや
蓋を作って実験して見た
量は少い様ではあるが地上手だ



更に防諜班なるものを編成して民間と密接な
連繋を保持した
三月一日彰光丸出した 軍司令部の傳令馬袋
長以下三名異常なく帰隊した 彼等は
意気軒昂である 同じく
「軍司令部にかつぎこんだら そんなに国家でなくて市
此の容態が続いてから中々登位に来いと又
中途地迄の兵隊は重傷は壕に入れるか多方
財産を止めて沖合に集合して行く設備を明め
実ってみる損害なんかありません
艦砲の至近弾を受けましたが爆風の一寸撃
だけで大した事はありません
付いたものである 彼等に依って部隊一同喜
気合が揃って事に 一点の曇りこころを
目的の爾後は立る事 実行
異常点である
亦無保持安後の組とは美国で必ず合い事に

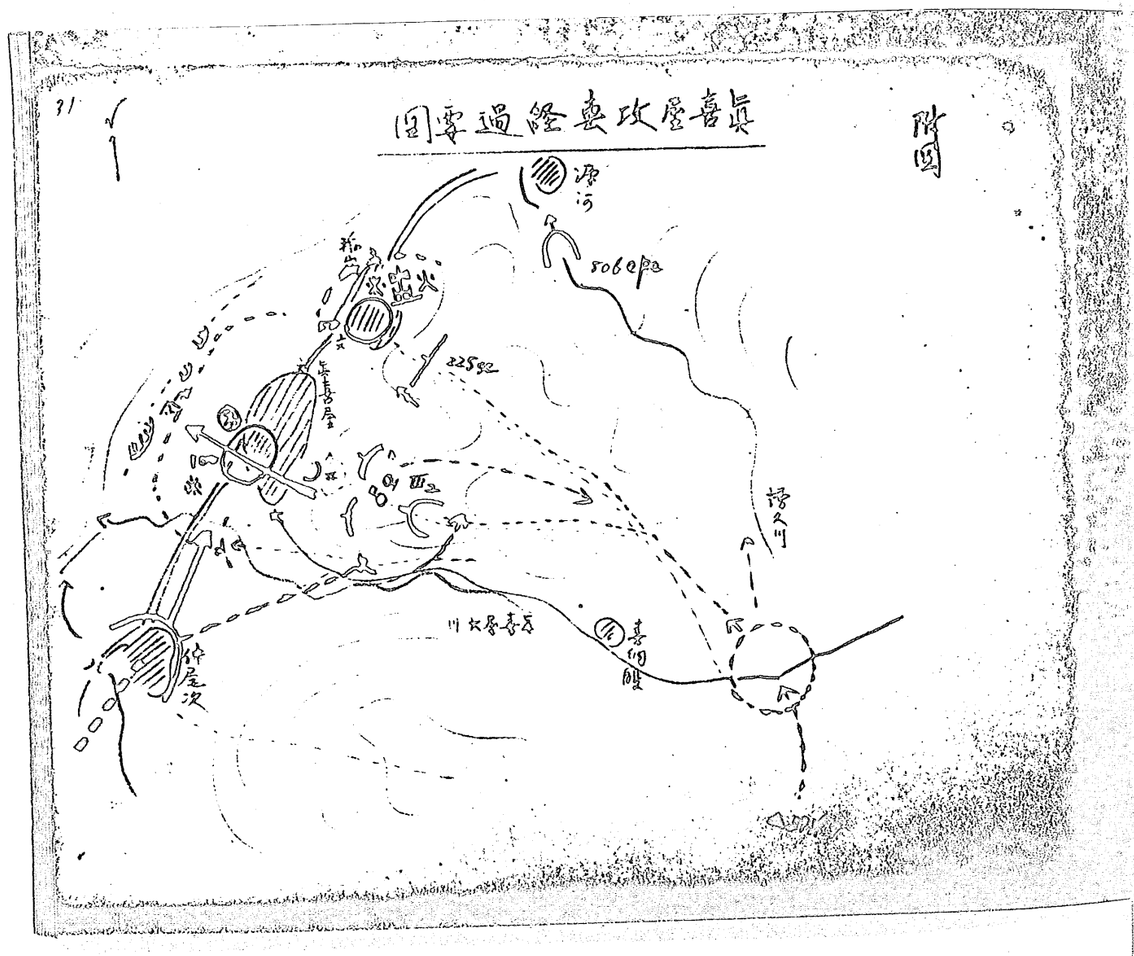
報告を聞いてから今夜の監視哨に上った。
軍の今迄はこんなに艦砲射撃やられて居ると
敵の台湾作戦の為の準備であると思って居
るらしい
敵艦船は日を追って増へた。特に猿渡岬附近
数へることも出来ない一部の群は伊豆諸島
に在る時作戦の体に近進艦砲射撃
を繰返えす。と来る敵の作戦である
飛行機も我が対空砲火の無いのを知って
縦横無尽に飛び廻る。口頭地区の各
攻撃を受けて居ない所は無い
其の晩は駐屯隊の宿舎の仮設哨所
で寝て居て抑哨と同時哨長が
今日は大分状況が違って来ます。と起すので
寝惚け眼を良く開いて見ると猿渡岬沖の艦
船は水平線が見えない位黒になって来た





国事過程表攻屋喜長

附図


源治
225
西
西
西

成功する一部隊の新発足ともなれば西に幸先よしである

本部と戦車指揮所に移り一民

戦車準備は間に合うかどうかである加辛うじて間に合

さうである 養気分を撫ぜる様に意はれて命令

二日三日と経つにつれて状況は逐次明瞭となる

また敵い沖縄作戦に各国の艦船を全部

集結使用しているらしい 愈々決戦だ

任務を既到に帰すべき聖戦は展開される

のである 中頃独逸では

一機一艦船一艇一船一人を殺一戦車で頑張る

ものであり

天一号決戦こそは"神風"は沖縄より実現する

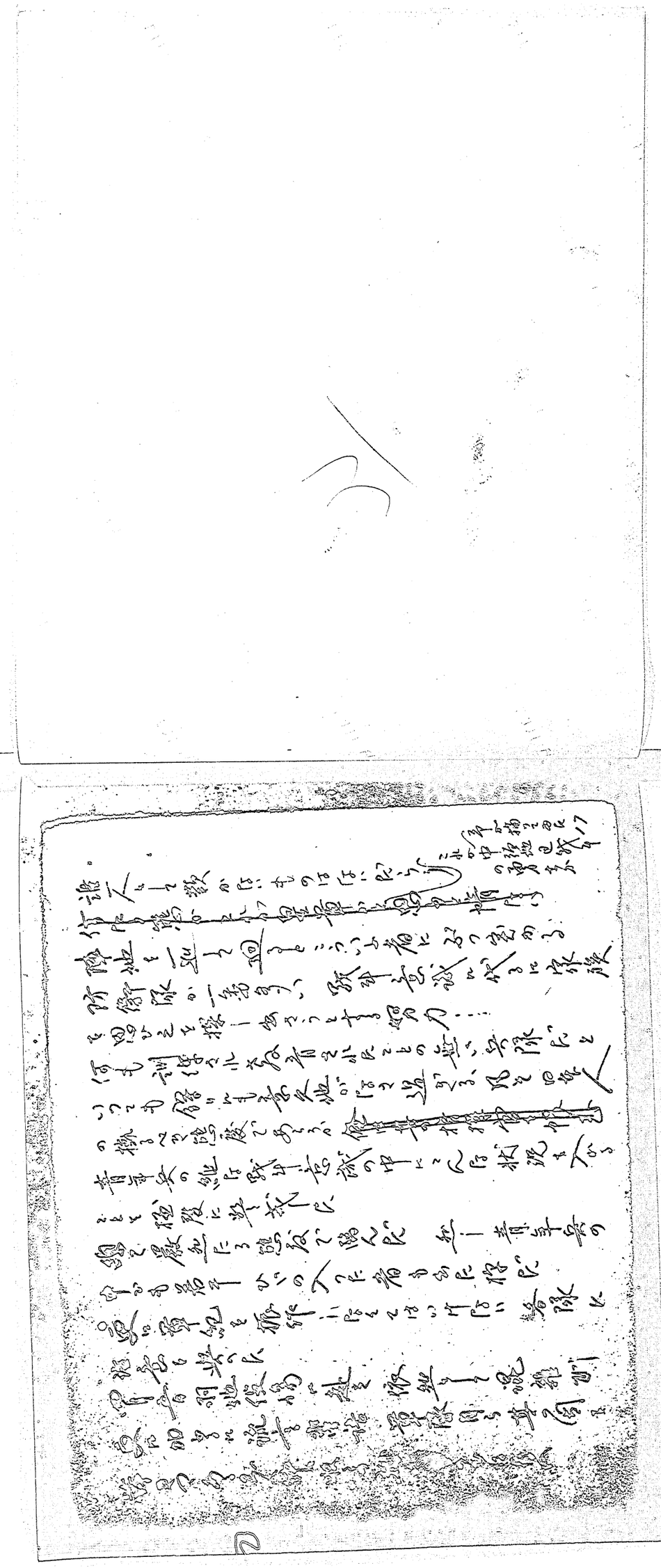
神機なのだ 我等は遥かに此の檜舞台に参じ

極身壊巷の地を覆らんとする熱烈なる義勇

戦士であるのだ 兵達は可愛い顔に満面の思を

含んで只管奮へる任務に邁進する

三日の夜警戒少隊の巡察隊が地方人の逃げ込んでゐるのを追い込んでゐるのを直感的に敵の
はるそのう音音妻の報告を受け
敵人諜者であると判断して捕へんとして逃げ
逃がそうとした知花をかすめ男らしい怪傑者の
嫌疑濃厚である。毎夜の如き怪火次第に
神経は尖って来る
三日間に渡り中頭地区より脱走一指揮系統
も何も乱れた兵隊の同様地区に逃げ次多く
なって来た もう既に彼等は戦意を喪失
してゐる 余程の数は一次方に 彼等大半なるは
明日帰りもつけ此方も彼等の言動の地方人に
及す影響は甚大である 地方人の中には我々に
何とかして下さい、と数度して来る人もある可哀い
我の子を我が兄弟を戦地に送ってゐる人々にとって
吾母国民である。以上 此の孫を見に等



或る部隊の如きは民家の人々は山に避難して居る
隙間に家宅侵入して食糧を盗み喰い場合は
大多数は米等を絞め殺して喰つてゐるのも強奪民
それも一つ二つならず伴も等に片端からものに
殺ゲ所でも行はれてゐる

~~今日は孤立して新しい作戦命令を待つ~~
~~悔ひ残すのは命令を待ち~~ 職業的 ~~[illegible]~~
~~[illegible]~~ 部隊の前進
~~[illegible]~~ 陣地

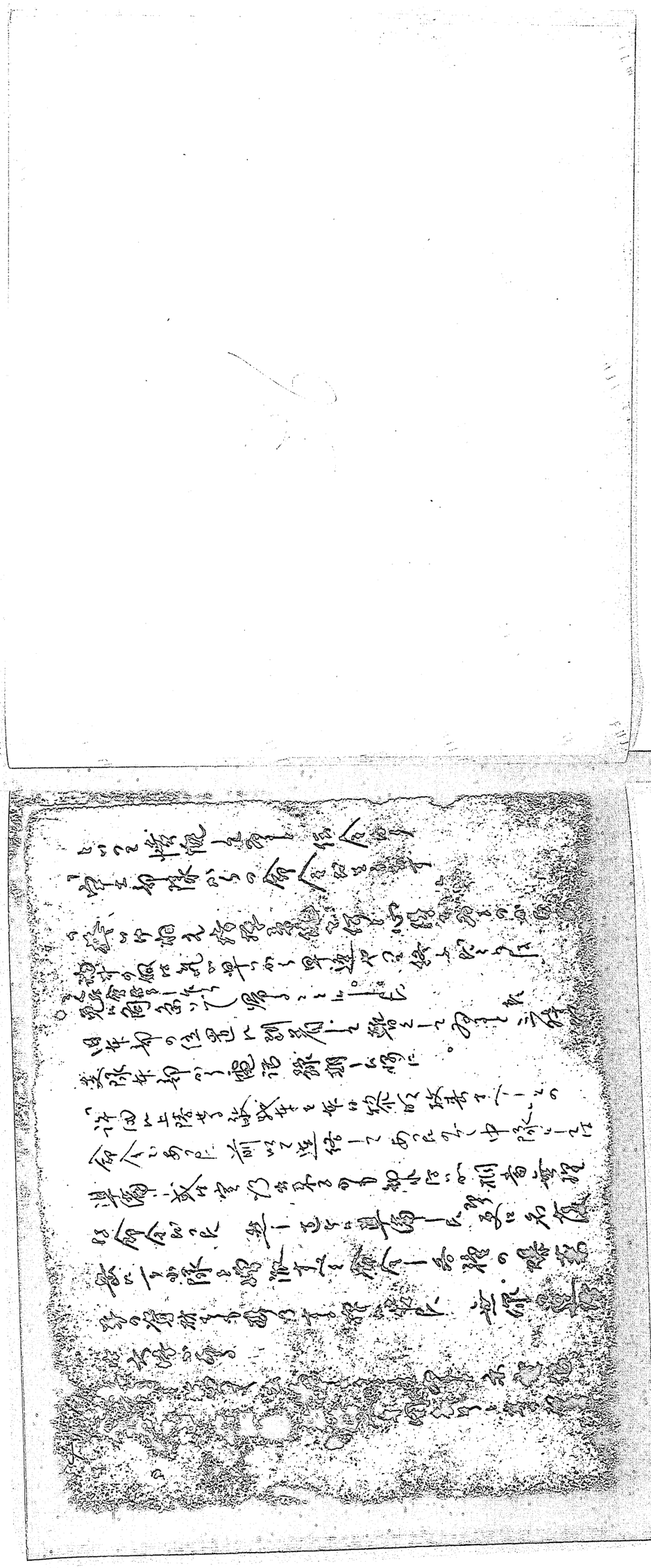
部隊の方で掠奪を部令して早速南下
敵攻撃の実行として出ーに
部隊の方では書類の分なる戰争準備は
遺めらるる行く特に掠奪保存は保有掠奪
傳ずに為地方物資の收集に大変に
名産の倉庫がやられたと聞けば早速走つて行つて
味噌醤油等の花産品を集め各学校で製造
それに乾燥野菜等も集る民 名産の事
それに時は之を強奪も出来た煙草

を、沢山讃美として載いた
此の頃、金武方面には敵の一部が侵入したが
四月六日十五時過ぎ海の彼方で我が無容隙の攻
撃によって四発の戦況烈しかったと思はれる。舟艇二隻
消息不明、重傷者二名、ほか作業員一名、と監視哨
からの報告、出て見れば、LCTに昨日はあそこに
船舶群集を加へて居たが愈々上陸したのだ。
此は迫り来る危いと思つて又民衆指導の為
更に監視を怠らずすべしと命じ

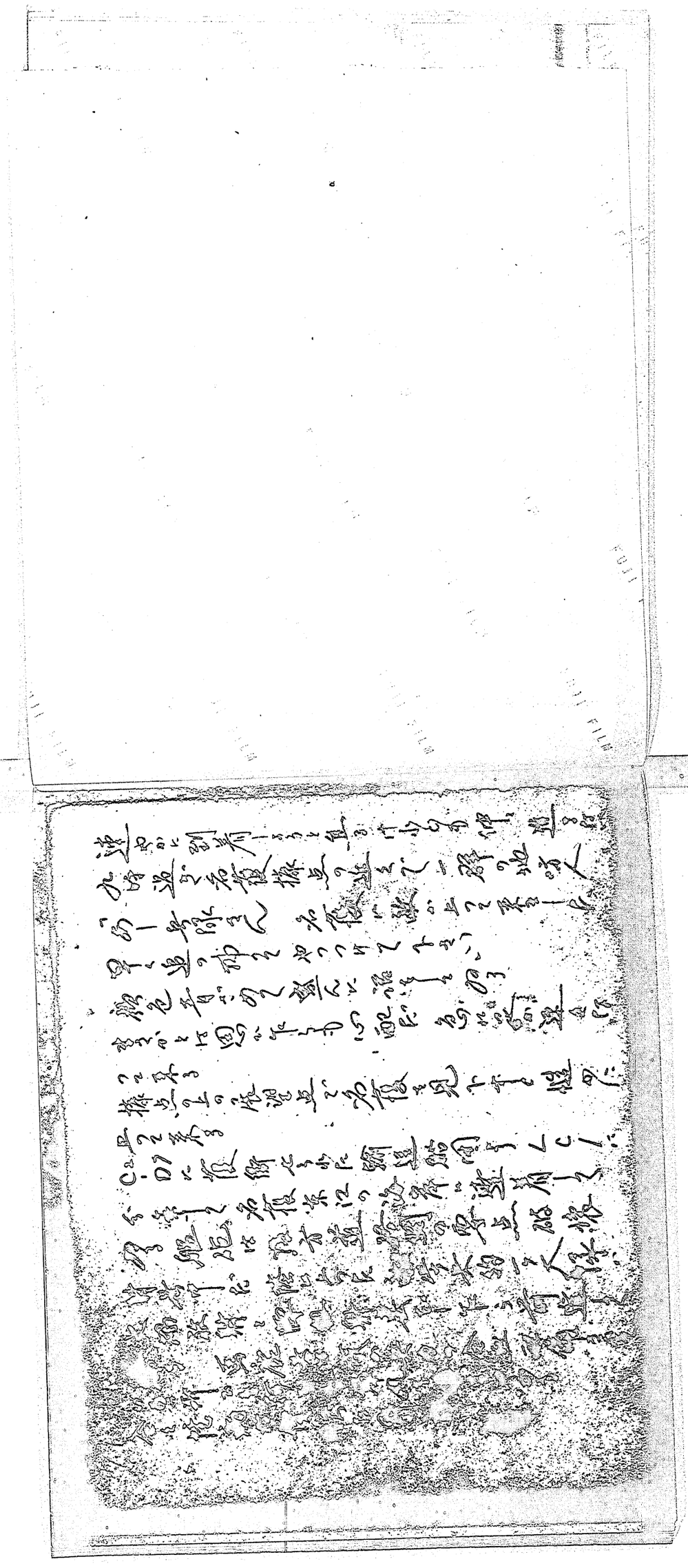
部落へ出てゐつた人
部落の方では避難命令が傳達されると一入
混雑は激しくなって来た。民衆といふ奴は伸て
動かせるものではない。民衆を利用する遊撃戦
道路橋梁等の破壊と命じたるも全面的破
壊は望まず

民衆の避難誘導、敵上陸時に於ける挙げて防衛
民防衛隊の好初業の打合せをした
目設頃まで愈々看護に対する船砲射撃が
始めた D級である 役場の窓から人がガタ
ガタ揺れて来る
避難民は益々増して来た最初の計画はもう既に
出かけて約二倍の民衆の人で溢れ出た大元を取り
巻き初めた地方事務所の機能は停止して
みるみる迷へる民衆は何を頼りに力動いて良い
やらさっぱり分からなくなって右往左往して更に混雑
は倍々になる一方だ 全く官吏といふ奴は腰抜けも
責任観念の無い者共許りだ
帰路仲尾次の天城孫次郎さんの家に立
寄った 思屋事務所の先日通の成果を上げたと
語る者もあるのも知れん 有ったとしたら成日は敵の
上陸を予想する今日自信ない限りだ

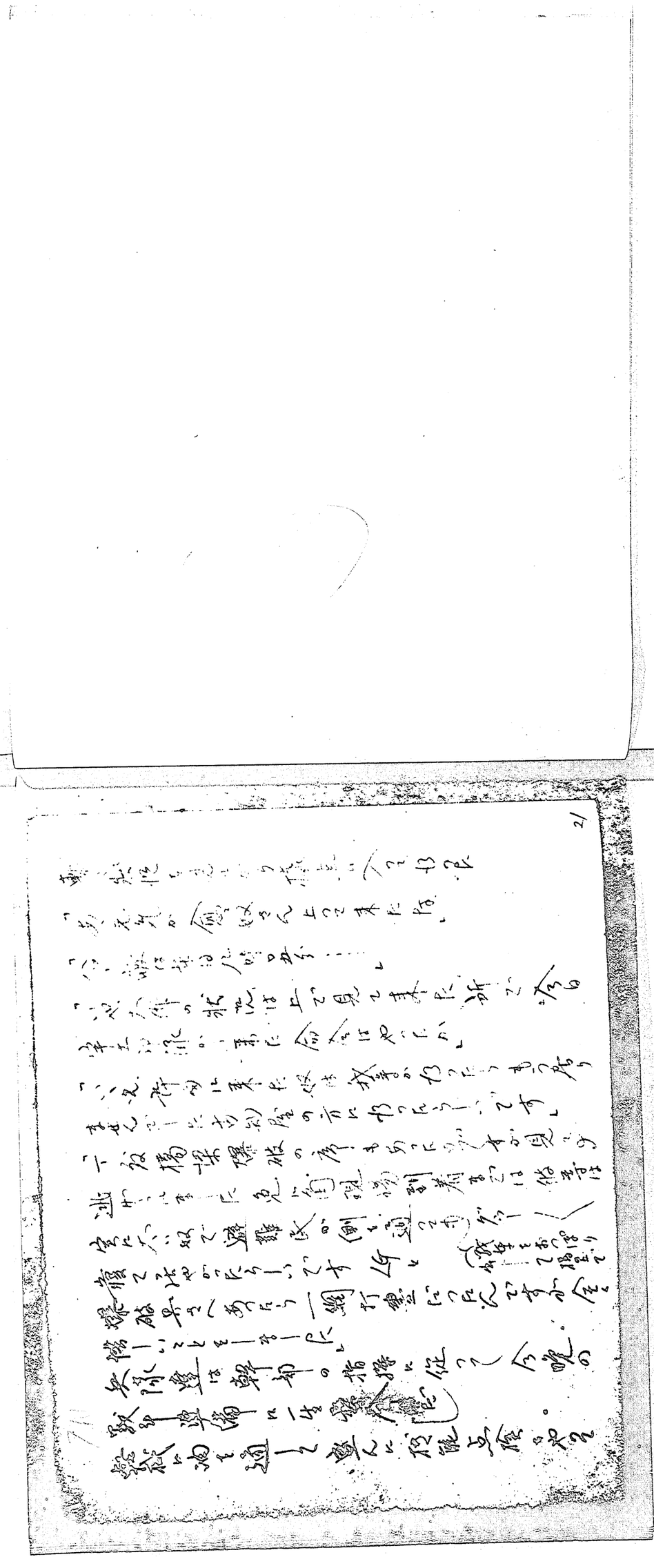
という風に考へにのぼつてゐる
所に今まで勇敢な番兵が一人居合せてゐた
うまい具合に話をわかつてゐて遂に懐柔に成功
大変な魔のもとだから出来る事なら設みも一大変
仲亜連合の兵上水甸一帯の市土産をもつて
山に帰つて行つた
撤兵に入る直前兵備隊の連中が撤退で相談
こんな難題を遂に知つて一寸休憩して話をしたら
其の水甸は何ですか多分酒でせう
遂に数隻見えた長居は無用し出発しようと
と云つて傳令！
「油井隊は只今より許白に上陸した戦果を攻撃
設しなさい」
「何、許白に上陸した敵を攻撃スルト？それは誰の
命令かね？永福音隊長の指揮によつて遂行
と言つたのに中隊から」



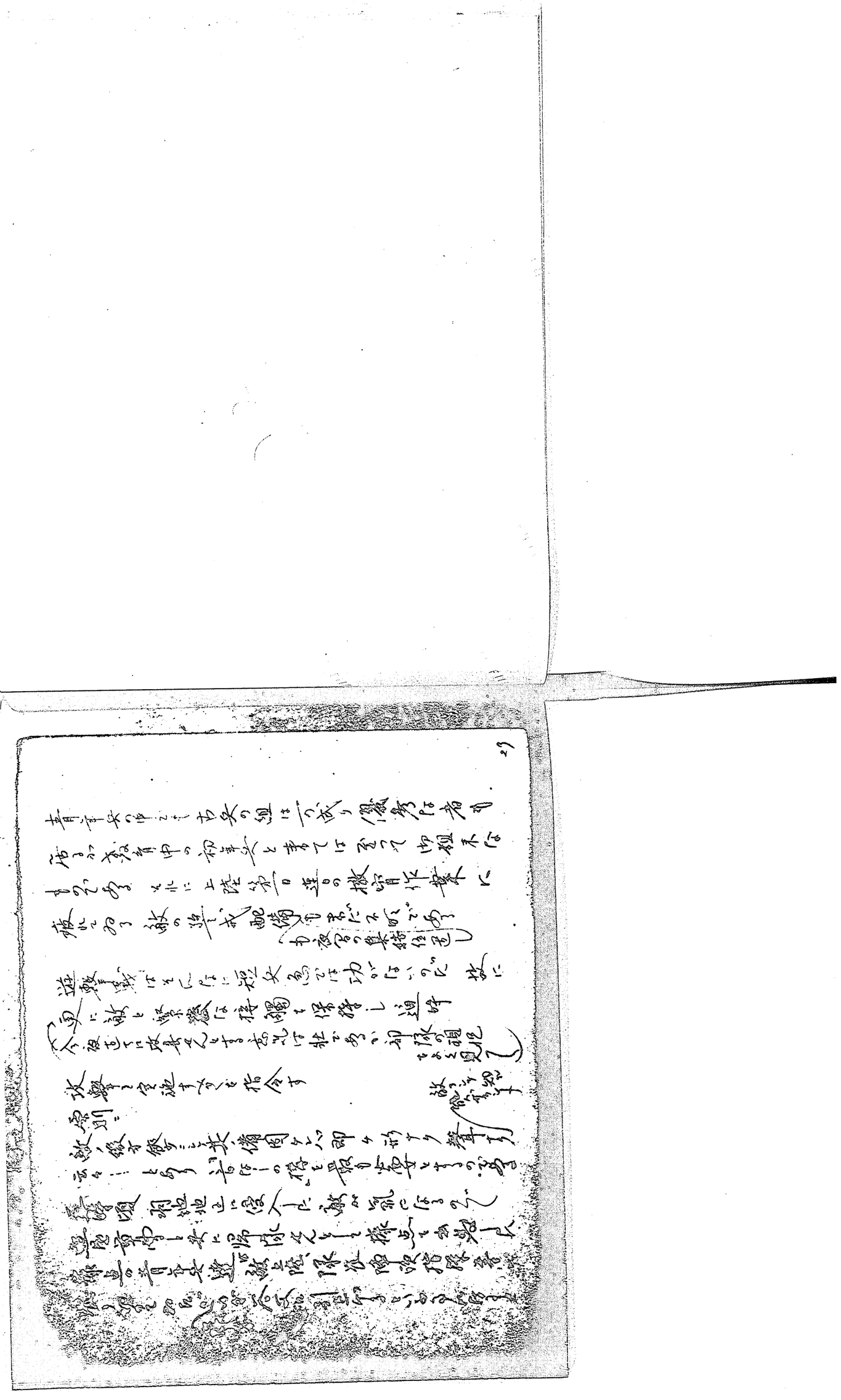
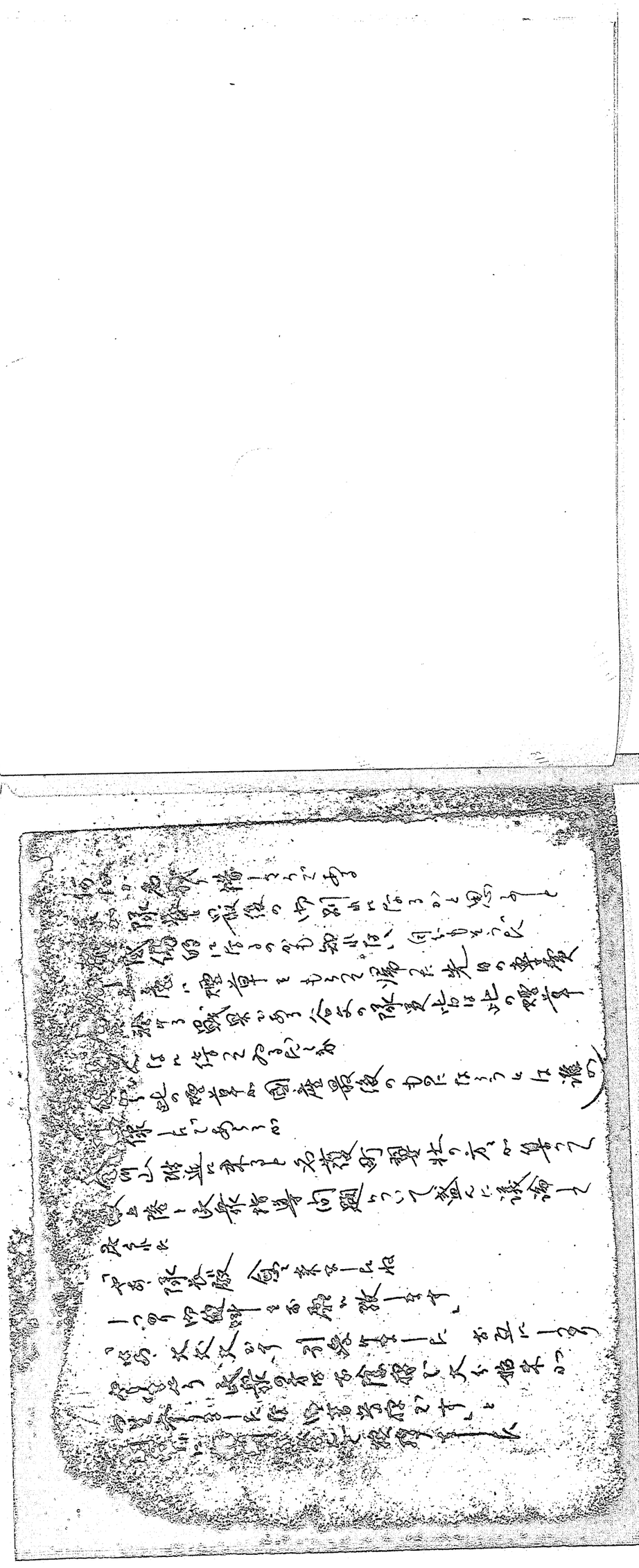
戦略要点に於ける陣地の有無等を將校斥候を以て捜索八日〇〇年迄に報告すべしとのこと
全く無理に欲の皮は特徴き〈中途まで行く
まづは少くも歩けば一日は稼る。まーて金は
欲の元湯と言る中を一日で使を清
まして雑巾はあへてから知って驚しい 命令あらば
ケー物は考へてから知って驚しい 口の開からない
文句はないが実行不可能である
是刻の評白の戦事にしてもとうである 全く
無理だ 一体支隊は一番ーに、戦車方針
あるのだらうか
地獄戦の原則も何回かに亦て話もー研究
すーに値だ ケる事は国音で叫ぶ
人参へ帰る第一中隊の第一中隊を遮断して
神戸と名古屋に向ても殺しに
遮断 討ち遮断 遮断に注意ー致ら成る



みるのもあぶない小銃を郷の手入をしてゐる者も居る
家に憂すの次女に「無心でやつてゐる
一方では棚を作つてゐる。敵の射撃が
激しくなる事に
監視哨からは絶えず報告が来る
「戦車二台自動車に歩兵を満載して宮城の方へ
行きました」
「十時一五分敵約一中隊三百名の下で休んで
居ります」
「十時二五分先刻休んでゐた敵の自動車四輌
戦車一側車一と共に山田憲兵隊を通過北上
しました」
「東江に上つた敵歩兵の中約五六十名は只今
陣を築陣迫を数歩ノ中であります」
「何数歩ノ中でやがる全く接着に観めてやがるな」
「先刻宮城の方へ[illegible]部隊は引き返しました」



みるもあぶなかしく小銃を郷の手入をしてゐる者も居る
家に蓄えてゐる途中に無心でやるゐる
一方では捕色隊を作るゐる敵の射撃が
激しくなる常態
監視哨からは絶えず報告が来る
「戦車二台自動車に歩兵を満載して宮田の方へ
行きます！」
「十時二十分敵約一中隊を女の下で休んで
居ります」
「十時二十分先刻休んでゐた敵の自動車四輌
戦車一側車一と共に山田宮原を通過北上
しました！」
「東江に上った敵歩兵の中約五六十名は只今
障子嶽附近を徴発中であります」
何徴発ーしてやかる今くに接着に観めてやかるな
「先刻宮田の方へ行った部隊は引き返しました」

等々の報告…報告要領は実に不味い
方言でよいのうなかすと言ふ様に報告す
様に繰り返すの所が仲に思る様には行かない
然し何とか状況は分る
敵は本當に国の下に来た 山に向って盛んに
発砲してゐる 弾上にもそろそろ跳弾が来
るらしい 敵情を偵察に就いて指導した
を続った 今夜の攻撃の為鋭敏の(今後とは限らず)
色んな事を話してゐると 逆富貴の上に出て
居た哨兵から報告があった
第四の哨兵…二名 盗賊哨の玉城香と矢
初春で缶詰を持ってゐる所をアメリカ兵
[illegible]

まーたー所がアメリカ兵は悲鳴をあげて
逃げたので其の隙に帰って参りました」と
「許白に上陸せる戦車は数次の障碍を排除し
敵の右翼上陸するや一遍に進入ーまーした
遂次状況は明瞭になった
思い奇へて見ると傑作である「ほだってアメリカ兵は
だらーしかないんかな」「も城青年兵傑いぞ」
右翼掩護点の青年兵達は
第一護郷隊の第一特攻隊は我々に一番先に敵と
引き受けた警の中隊に
白兵戦を御覧なさる
一部の特戦兵の外は戦車進撃をしてみる
迎撃部隊は足の為他断的に物を処理し得ない
場で答易に進撃はなし得ない間の抜けた事
許りやってみる青年兵もある
常道を中心を矢っている見受ける